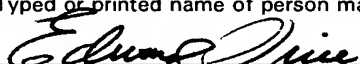


PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant:	Takayuki TAKIMOTO)	<u>CERTIFICATE OF MAILING BY "EXPRESS MAIL"</u>
Appln. No.:	Unassigned)	"Express Mail" Mailing Label Number
Filed:	Herewith)	<u>EL 961662285 US</u>
Title:	EXTERNALLY DEVELOPED AIRBAG DEVICE)	Date of Deposit <u>March 12, 2004</u>
TC/A.U.:	Unassigned)	I hereby certify that this paper or fee is being deposited
Examiner:	Unassigned)	with sufficient postage utilizing the United States Postal
)	Service "Express Mail Post Office to Addressee" Service
)	under 37 CFR §1.10 on the date indicated above and
)	is addressed to the Commissioner for Patents,
)	P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.
)	<u>Edward Price</u>
Docket No.:	79976)	(Typed or printed name of person mailing)
Customer No.:	22242)	
)	(Signature of person mailing)

TRANSMITTAL OF PRIORITY DOCUMENT

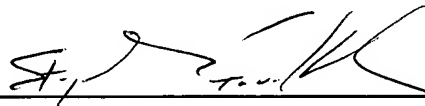
Mail Stop PATENT APPLICATION
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

A claim for priority based on Japanese Patent Application No. JP2003-140631 is filed herewith for the above-identified U.S. application. Enclosed, in compliance with 37 C.F.R. §1.55, is a Certified Copy of the Japanese Priority Document, filed May 19, 2003.

Respectfully submitted,

Date: March 12, 2004


Stephen S. Favakeh
Registration No. 36,798

FITCH, EVEN, TABIN & FLANNERY
Suite 1600
120 South LaSalle Street
Chicago, Illinois 60603-3406
Telephone: (312) 577-7000
Facsimile: (312) 577-7007

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 5月19日
Date of Application:

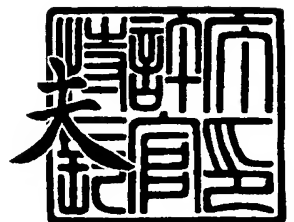
出願番号 特願2003-140631
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-140631]

出願人 タカタ株式会社
Applicant(s):

2003年12月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康





【書類名】 特許願

【整理番号】 P-11160

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号 タカタ株式会社内

 【氏名】 瀧本 孝之

【特許出願人】

 【識別番号】 000108591

 【氏名又は名称】 タカタ株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100086911

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 004787

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 外面展開型エアバッグ装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車体の外面に沿って展開するエアバッグと、該エアバッグを膨張させるガス発生器とを備えた外面展開型エアバッグ装置において、

該エアバッグが展開予定領域に展開するように案内する案内手段を設けたことを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【請求項 2】 請求項 1 において、該展開予定領域は、車体の A ピラー外面であることを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 において、該案内手段は、該展開予定領域に沿って延在するガイドロッドを有することを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【請求項 4】 請求項 3 において、該ガイドロッドを覆うカバーを有することを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【請求項 5】 請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項において、該案内手段は、付着物を除去する除去手段を有することを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【請求項 6】 請求項 5 において、該除去手段は、雪又は氷を融解させるための加熱手段であることを特徴とする外面展開型エアバッグ装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車が行走時に歩行者、自転車、バイク等と衝突した際に歩行者や自転車、バイク等の乗員（以下、歩行者等という。）が車体のピラー部やフェンダー部等の剛性の高い部分等に直接に当たることを防止して歩行者等を保護するための外面展開型エアバッグ装置に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

特開 2 0 0 0 - 2 6 4 1 4 6 号公報には、自動車が歩行者等と衝突したときに

、自動車の左右のAピラーに沿ってエアバッグを膨張させて該歩行者等がAピラーに直接に当たることを防止して歩行者等を保護するようにした外面展開型エアバッグ装置が開示されている。

【0 0 0 3】

同号公報の外面展開型エアバッグ装置にあっては、歩行者等との衝突が検知されると、ガス発生器がガス噴出作動し、エアバッグが膨張する。このエアバッグは、エンジンフードの後部を押し上げて車体外部に膨らみ出し、左右の各Aピラーに沿って上方に膨張し、該Aピラーを覆う。

【0 0 0 4】

【特許文献1】

特開 2 0 0 0 - 2 6 4 1 4 6 号公報

【0 0 0 5】

【発明が解決しようとする課題】

上記特開 2 0 0 0 - 2 6 4 1 4 6 号公報の外面展開型エアバッグ装置にあっては、Aピラーに沿って膨張しようとするエアバッグあるいはAピラーに沿って膨張したエアバッグが、Aピラー前面領域から逸脱するおそれがある。

【0 0 0 6】

本発明は、エアバッグが確実に展開予定領域に沿って展開する外面展開型エアバッグ装置を提供することを目的とする。

【0 0 0 7】

【課題を解決するための手段】

本発明の外面展開型エアバッグ装置は、車体の外面に沿って展開するエアバッグと、該エアバッグを膨張させるガス発生器とを備えた外面展開型エアバッグ装置において、該エアバッグが展開予定領域に展開するように案内する案内手段を設けたことを特徴とするものである。

【0 0 0 8】

かかる本発明の外面展開型エアバッグ装置によると、エアバッグは案内手段によって案内されることにより、確実に展開予定領域に沿って展開ようになる。また、この案内手段が、エアバッグ展開後においてもエアバッグが展開予定領

域から逸脱することを防止するよう構成されている場合には、例えば歩行者等がエアバッグに当たった場合でも、エアバッグが展開予定領域から逸脱することが防止される。

【0009】

本発明は、エアバッグをAピラー外面に沿って展開させるよう構成されている場合に適用するのに好適であるが、これに限定されるものではない。

【0010】

本発明では、案内手段としては、ガイドロッドが、構成が簡便であり、好適である。

【0011】

このガイドロッドを覆うカバーを設けることにより、美観を高めることができる。また、異物の付着を防止してエアバッグを極めてスムーズに案内することも可能となる。

【0012】

本発明では、案内手段から付着物を除去する手段を設けることにより、エアバッグが常に著しくスムーズに案内手段に沿って展開するようになる。

【0013】

この除去手段は、ワイパー装置の如き機械的な機構であってもよく、雪や氷を融解除去する加熱手段であってもよい。

【0014】

加熱手段は、電気ヒータであってもよく、エンジンやラジエータの放熱等の廃熱を利用するものであってもよい。

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【0016】

第1図は本発明の実施の形態に係る外面展開型エアバッグ装置を示す自動車のAピラー付近の斜視図、第2図はこの外面展開型エアバッグ装置のエアバッグモジュールの斜視図、第3図は第1図のIII-III線断面図、第4図は第1図のIV-

IV線断面図、第5図はこの外面展開型エアバッグ装置の分解斜視図、第6図はエアバッグ展開途中時における外面展開型エアバッグ装置の斜視図、第7図は第6図のVII-VII線断面図、第8図はエアバッグ展開完了時における外面展開型エアバッグ装置の斜視図、第9図は第8図のIX-IX線断面図である。

【0017】

自動車1のウィンドシールド（フロントガラス）2の下縁部とボンネットフード（エンジンフード）4の後縁部との間に位置するように外面展開型エアバッグ装置10のエアバッグモジュール12が設置されている。このエアバッグモジュール12は、ウィンドシールド2の周縁部を覆うように膨張するエアバッグ14と、折り畳まれた該エアバッグ14を収容した無蓋箱状のケース16と、該ケース16の上面に装着されたモジュールカバー18と、該エアバッグを膨張させるためのガス発生器（図示略）とを有している。該モジュールカバー18にはテアライン18aが設けられており、エアバッグ14が膨張したときには、該モジュールカバー18がこのテアライン18aから開裂して開き出し、エアバッグ14の展開を許容する。

【0018】

この実施の形態では、該エアバッグ14は、第8図に示すように、ウィンドシールド2の下縁部に沿って車体幅方向（左右方向）に展開するバッグ基部14aと、該バッグ基部14aの左右両端側からそれぞれ左右のAピラー6の外面に沿って上方に突出するように展開するバッグサイド部14bとを有している。各バッグサイド部14bの上端部には、後述のガイドロッド20に巻き掛けられたループ状の連結帯14cが取り付けられている。

【0019】

なお、この実施の形態では、エアバッグ14は、第7図及び第9図に示すように、ウィンドシールド2やAピラー6の外面と重なる側のエアバッグ面を構成するロアパネル14dと、該ロアパネル14dと反対側の面を構成するアッパーパネル14eとから外殻が構成されている。該ロアパネル14dとアッパーパネル14eとは、各々の周縁部同士が縫合等によって結合されることにより袋状とされている。また、これらロアパネル14dとアッパーパネル14eとは、エアバ

ック内部において連結パネル 14 f によって連結されている。この連結パネル 14 f により、エアバッグ 14 が膨張したときにロアパネル 14 d が過度にウィンドシールド 2 やピラー 6 の外面から突出するように膨らみ出すことが防止される。なお、該連結パネル 14 f には、その両サイドの空室同士を連通する開口 14 g が設けられており、エアバッグ膨張時には、該連結パネル 14 f の両サイドの空室が同内圧にて膨張するようになる。

【0020】

ケース 16 は、ウィンドシールド 2 の下縁部に沿って配置されており、その左右両端側は、それぞれ左右の各 A ピラー 6 の下端部付近に位置している。このケース 16 内に、エアバッグ 14 のバッグ基部 14 a が連結されている。該エアバッグ 14 は、左右のバッグサイド部 14 b が各々の上端側からバッグ基部 14 a に向ってジグザグ状に折り畳まれると共に、該バッグ基部 14 a が車体前後方向にジグザグ状に折り畳まれて左右方向に細長い折り畳み体とされ、該ケース 16 内に収容されている。

【0021】

モジュールカバー 18 の左右両端部には、切欠き状の小開放部 18 b (第 2 図) が設けられており、この小開放部 18 b を通して、連結帯 14 c がケース 16 の外部に引き出されている。

【0022】

各 A ピラー 6 には、エアバッグ 14 の各バッグサイド部 14 b の展開を案内する展開案内手段としてのガイドロッド 20 が設けられている。該ガイドロッド 20 は、A ピラーの外面に沿って略上下方向に延在する棒状部材であり、上下両端がそれぞれブラインドリベット 20 a 及びボルト 20 b 等によって該 A ピラー 6 の上端部付近及び下端部付近に固定されている。第 5 図の符号 6 a, 6 b は、それぞれ該ブラインドリベット 20 a 及びボルト 20 b が固着される孔を示している。

【0023】

前記連結帯 14 c は、このガイドロッド 20 に緩く巻き掛けられ、該ガイドロッド 20 に沿って移動自在となっている。

【0024】

各Aピラー6には、このガイドロッド20を覆うカバー22が装着されている。この実施の形態では、該カバー22は、Aピラー6の外面に重なる基片部22aと、該ガイドロッド20の前面側を覆うカバー部22bとを有している。該基片部22aとカバー部22bの左右両側縁部同士はそれぞれ互いに連続している。これらの基片部22aとカバー部22bとによって包囲された空間Sは該カバー22をAピラー6の延在方向に貫通する貫通孔を形成しており、この空間S内にガイドロッド20が挿通されている。なお、該基片部22aは、第4図に示すように、Aピラー6とウィンドシールド2の辺縁部同士の継ぎ目を覆うように配置され、ウェザーストリップとしても機能するよう構成されている。

【0025】

この実施の形態では、カバー部22bの裏面において、該カバー部22bのウィンドシールド2側の辺縁に沿ってテアライン22cが延設されている。カバー22は、連結帯14cがガイドロッド20に沿って移動するのに伴い、このテアライン22cが該連結帯14cによって引き裂かれることにより、該連結帯14cの移動を許容する。なお、テアライン22cの配置はこれに限定されるものではなく、カバー部22bの左右方向の中間部付近を通るように延設されてもよい。

【0026】

該基片部22bの裏面からは、このカバー22をAピラー6に固定するためのスナップファスナ22dが該Aピラー6の延在方向に間隔をおいて複数個（この実施の形態では3個）突設されている。第5図の符号6cは、該スナップファスナ22dに係合する孔を示している。

【0027】

ガイドロッド20及びカバー22をAピラー6に取り付けるに当っては、第5図に示すように、予めガイドロッド20をカバー22に挿通しておくと共に、該ガイドロッド20に連結帯14cを掛けておき、該ガイドロッド20の上下両端部をブラインドリベット20a及びボルト20bによってAピラー6に固定する。その後、各スナップファスナ22dを対応する孔6cに押し込み、カバー22

を A ピラー 6 に固定する。

【 0 0 2 8 】

なお、第 5 図の通り、該ガイドロッド 2 0 の長さは、カバー 2 2 の上下両縁部同士の間隔よりも大きいものとなっている。そのため、該ガイドロッド 2 0 は、その両端部がそれぞれカバー 2 2 の上下両縁部からはみ出している。この実施の形態では、左右の A ピラー 6 にこれらのガイドロッド 2 0 及びカバー 2 2 を取り付けした後、ウィンドシールド 2 の上縁部に沿ってアッパーカバー 2 4 を装着する。このアッパーカバー 2 4 は、その両端側がそれぞれ左右の A ピラー 6 の上端部を覆うよう構成されており、このアッパーカバー 2 4 により、カバー 2 2 の上縁部からはみ出したガイドロッド 2 0 の上端部も覆われる。

【 0 0 2 9 】

このアッパーカバー 2 4 の裏面からもスナップファスナ 2 4 a が突設されており、このスナップファスナ 2 4 a を各 A ピラー 6 の上端部並びにウィンドシールド 2 の上縁部に設けられた孔 6 d 等に係合させることにより、アッパーカバー 2 4 が固定される。

【 0 0 3 0 】

エアバッグモジュール 1 2 は、第 1 図及び第 3 図に示すように、モジュールカバー 1 8 の左右両端側がカバー 2 2 の下端側に隣接するように配置される。各ガイドロッド 2 0 の下端側は、このモジュールカバー 1 8 に覆われる。

【 0 0 3 1 】

この実施の形態では、第 1 図に示すように、左右のカバー 2 2 、アッパーカバー 2 4 及びモジュールカバー 1 8 は、ウィンドシールド 2 の周縁部を周回する一連一体のカバーの如き外観を呈するよう構成されている。

【 0 0 3 2 】

なお、図示はしないが、自動車 1 のフロントバンパ又はその近傍には、自動車 1 と歩行者等との衝突を検知又は予知するためのセンサが設けられており、外面展開型エアバッグ装置 1 0 は、このセンサからの信号に基づいて前記ガス発生器をガス噴出作動させる制御回路を備えている。

【 0 0 3 3 】

このように構成された外面展開型エアバッグ装置 10 において、該センサによって自動車 1 と歩行者等との衝突が検知又は予知された場合には、このセンサからの信号に基づいてガス発生器がガス噴出作動し、このガス発生器からのガスによりエアバッグ 14 が膨張を開始する。そして、バッグ基部 14 a がモジュールカバー 18 を押し開いてウィンドシールド 2 の下縁部を覆うように展開すると共に、該バッグ基部 14 a の左右両端側からそれぞれバッグサイド部 14 b が A ピラー 6 の外面に沿って上方に突出するように展開する。

【0034】

この際、各バッグサイド部 14 b の上端部は、連結帯 14 c を介してガイドロッド 20 に案内される。この連結帯 14 c は、バッグサイド部 14 b の上方への展開に伴ってカバー 22 を引き裂きながらガイドロッド 20 の上端部付近まで移動する。バッグサイド部 14 b は、この連結帯 14 c を介してガイドロッド 20 に連結されているため、該ガイドロッド 20 に沿って展開し、確実に A ピラー 6 の外面を覆うようになる。また、バッグサイド部 14 b は、展開を完了した後も連結帯 14 c を介してガイドロッド 20 に繋ぎ留められるため、例えば歩行者等がこのバッグサイド部 14 b に当たった場合でも、この歩行者等からの荷重によって左右にずれ動くことが防止され、しっかりと歩行者等を受け止めて保護することができる。

【0035】

この実施の形態では、バッグサイド部 14 b の展開を案内する案内手段としてガイドロッド 20 を用いているので、外面展開型エアバッグ装置 10 は構成が簡易である。

【0036】

この実施の形態では、該ガイドロッド 20 をカバー 22、アッパーカバー 24 並びにモジュールカバー 18 によって覆ったことにより、自動車 1 の美観が高まっている。また、これらのカバー 22、24、18 により、ガイドロッド 20 に異物が付着することが防止され、バッグサイド部 14 b がこのガイドロッド 20 によって常にスムーズに案内される。

【0037】

上記の実施の形態では、第4図の通り、ガイドロッド20の全周を包囲しており、連結帯14cによって引き裂かれることにより、該連結帯14cがガイドロッド20に沿って移動することを許容するよう構成されたカバー22を採用しているが、第10～12図にそれぞれ示すカバー26, 28, 30のように、予め連結帯14cの移動を許容する開放部が設けられた構成のものを採用してもよい。なお、第10～12図は、それぞれカバー26, 28, 30の構成を示すAピラー6部分の略水平断面図である。

【0038】

第10図において、カバー26は、Aピラー6の外面に重なる基片部26aと、ガイドロッド20の前面側（第10図における上面側）を覆うカバー部26bとを有している。この実施の形態では、該基片部26aとカバー部26bの外側（ウィンドシールド2側とは反対側）の側縁部同士は互いに連続しており、内側（ウィンドシールド2側）の側縁部同士は互いに離隔している。この基片部26aとカバー部26bの内側の側縁部同士の間隙が、ガイドロッド20に沿って連結帯14c（第10図では図示略）が移動することを許容する開放部26cとなっている。

【0039】

このように連結帯14cがガイドロッド20に沿って移動することを許容する開放部26cが予め設けられたカバー26を採用した場合には、連結帯14cがガイドロッド20に沿って極めてスムーズに移動する。

【0040】

第11図のカバー28も、Aピラー6の外面に重なる基片部28aと、ガイドロッド20の前面側（第11図における上面側）を覆うカバー部28bとを有している。また、この実施の形態でも、該基片部28aとカバー部28bの外側の側縁部同士は互いに連続していると共に、内側の側縁部同士は互いに離隔しており、この基片部28aとカバー部28bの内側の側縁部同士の間隙が、連結帯14c（第11図では図示略）の移動を許容する開放部28cとなっている。

【0041】

この実施の形態は、該基片部28aの内側の側縁部から、カバー部28bの内

側の側縁部に向って突片 28 d が突設されている。この突片 28 d は、開放部 28 c を横切り、その先端部がカバー 28 の内部側から該カバー部 28 d の側縁部に重なっている。なお、第 11 図においては該突片 28 d とカバー部 28 b の側縁部とは離隔しているが、両者は互いに当接していてもよい。

【0042】

このカバー 28 にあっては、該突片 28 d により、開放部 28 c から該カバー 28 の内部に異物が入り込むことが防止ないし抑制される。

【0043】

第 12 図のカバー 30 は、A ピラー 6 の外面に重なる基片部 30 a と、該基片部 30 a の内側及び外側の両側縁部からそれぞれガイドロッド 20 の前面側（第 12 図における上面側）に回り込むように突設されたカバー部半体 30 b, 30 c とを有している。このカバー 30 においては、該カバー部半体 30 b, 30 c の先端部同士の間が、連結帯 14 c（第 12 図では図示略）の移動を許容する開放部 30 d となっている。

【0044】

この実施の形態では、一方のカバー部半体 30 b の先端側が他方のカバー部半体 30 c の先端側の裏側に重なっており、これにより、該開放部 30 d からカバー 30 内に異物が入り込むことが防止ないし抑制される。なお、第 12 図では該カバー部半体 30 b の先端側とカバー部半体 30 c の先端側とは離隔しているが、両者は互いに当接していてもよい。

【0045】

上記第 10～12 図のカバー 26, 28, 30 においても、各々の基片部 26 a, 28 a, 30 a は A ピラー 6 とウィンドシールド 2 の辺縁部同士の継ぎ目を覆うように配置され、ウェザーストリップとしても機能するよう構成されている。

【0046】

本発明においては、第 13 図に示すように、ガイドロッドを覆うカバーが省略されてもよい。第 13 図の実施の形態では、ガイドロッド 20 が露出した状態となっている。そして、この実施の形態では、A ピラー 6 とウィンドシールド 2 の

辺縁部同士の継ぎ目に、カバーの代りにウェザーストリップ32が装着されている。なお、第13図は第10～12図と同様部分における略水平断面図である。

【0047】

本発明では、ガイドロッドから付着物を除去する手段を設けてもよい。このように構成することにより、エアバッグが常に著しくスムーズにガイドロッドに沿って展開するようになる。

【0048】

この付着物除去手段は、ワイパー装置の如き機械的な機構であってもよく、雪や氷を融解除去する加熱手段であってもよい。この加熱手段は、電気ヒータであってもよく、エンジンやラジエータの放熱等の廃熱を利用するものであってもよい。

【0049】

上記の各実施の形態は本発明の一例を示すものであり、本発明は上記以外の構成をもとり得る。例えば、上記の各実施の形態は、エアバッグをAピラーの外面に沿って展開させるよう構成されているが、これ以外の箇所にエアバッグを展開させるよう構成された場合にも本発明を適用できる。

【0050】

【発明の効果】

以上詳述した通り、本発明によると、エアバッグが確実に展開予定領域に沿って展開する外面展開型エアバッグ装置が提供される。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施の形態に係る外面展開型エアバッグ装置を示す自動車のAピラー付近の斜視図である。

【図2】

エアバッグモジュールの斜視図である。

【図3】

図1のIII-III線断面図である。

【図4】

図 1 のIV－IV線断面図である。

【図 5】

外面展開型エアバッグ装置の分解斜視図である。

【図 6】

エアバッグ展開途中時における外面展開型エアバッグ装置の斜視図である。

【図 7】

図 6 のVII－VII線断面図である。

【図 8】

エアバッグ展開完了時における外面展開型エアバッグ装置の斜視図である。

【図 9】

図 8 のIX－IX線断面図である。

【図 1 0】

カバーの別の構成例を示す断面図である。

【図 1 1】

カバーの別の構成例を示す断面図である。

【図 1 2】

カバーの別の構成例を示す断面図である。

【図 1 3】

カバーを省略した実施の形態を示す断面図である。

【符号の説明】

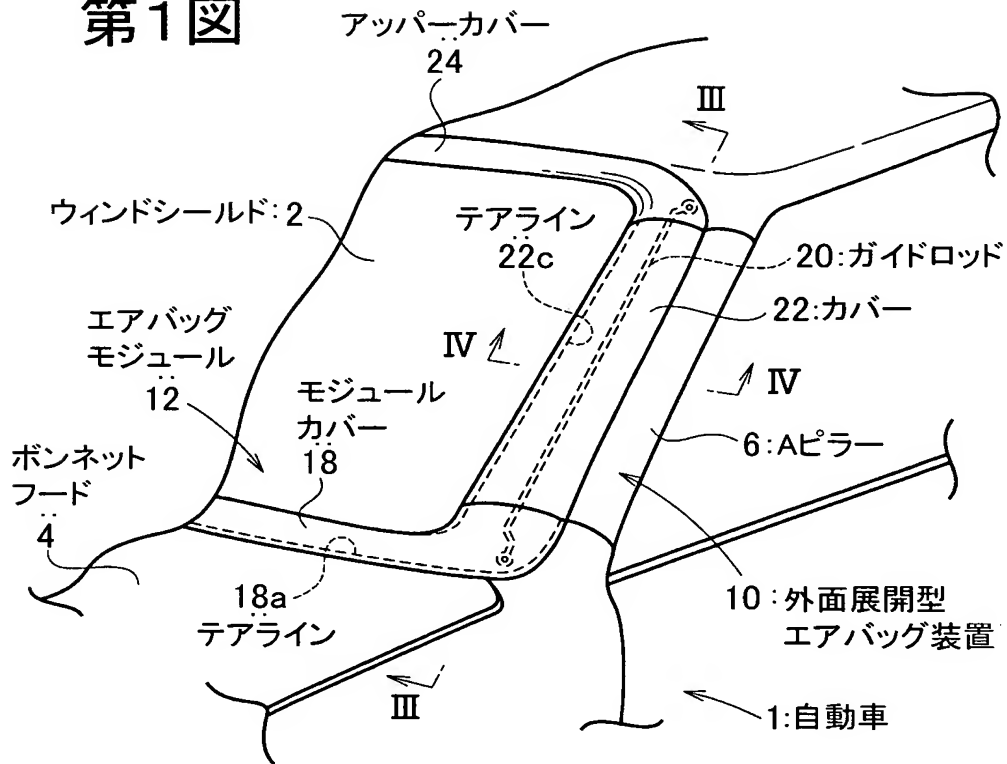
- 1 自動車
- 2 ウインドシールド
- 4 ボンネットフード
- 6 Aピラー
- 1 0 外面展開型エアバッグ装置
- 1 2 エアバッグモジュール
- 1 4 エアバッグ
- 1 4 a バッグ基部
- 1 4 b バッグサイド部

- 1 4 c 連結部
- 1 6 ケース
- 1 8 モジュールカバー
- 1 8 a テアライン
- 2 0 ガイドロッド
- 2 2 カバー
- 2 2 c テアライン
- 2 4 アッパーカバー
- 2 6 , 2 8 , 3 0 カバー
- 3 2 ウェザーストリップ

【書類名】 図面

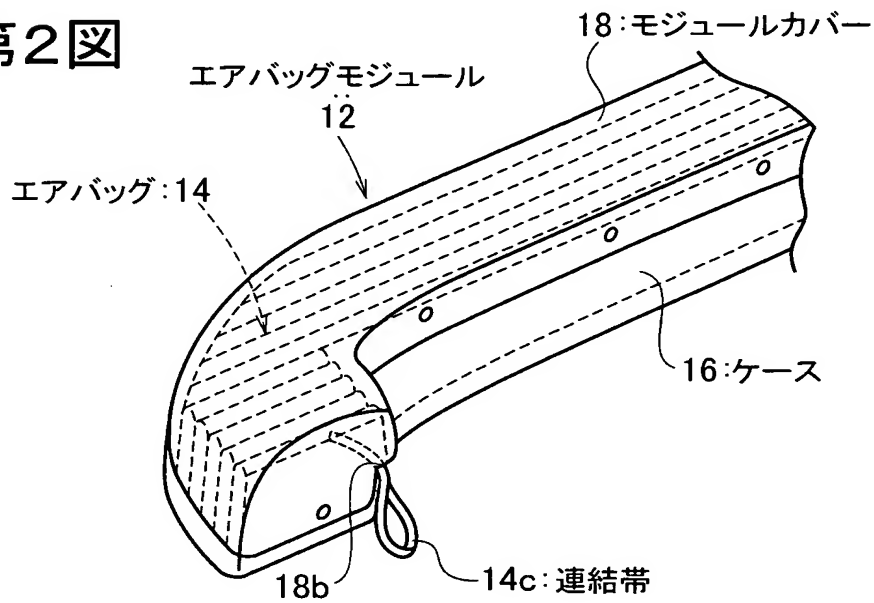
【図 1】

第1図



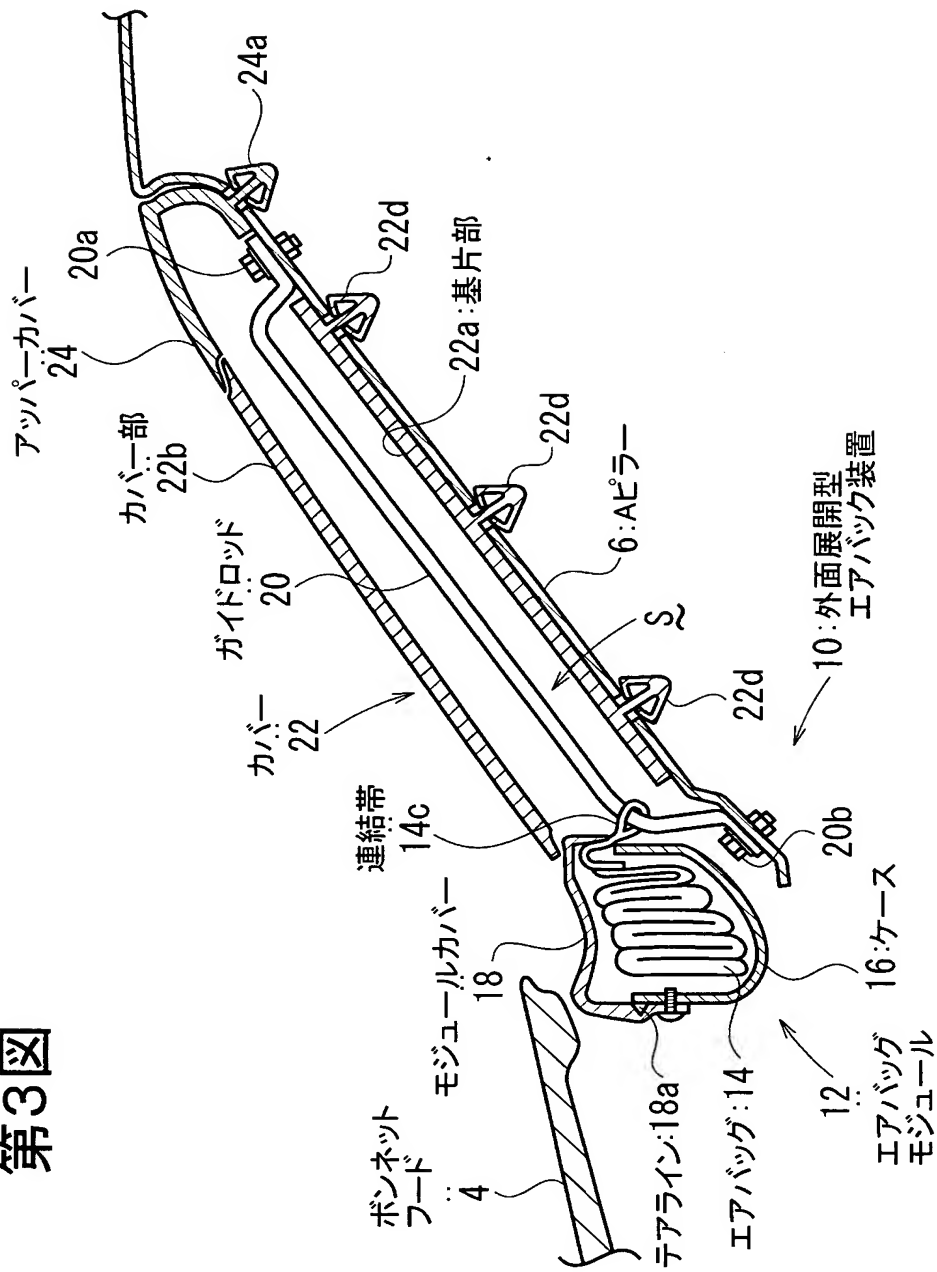
【図 2】

第2図



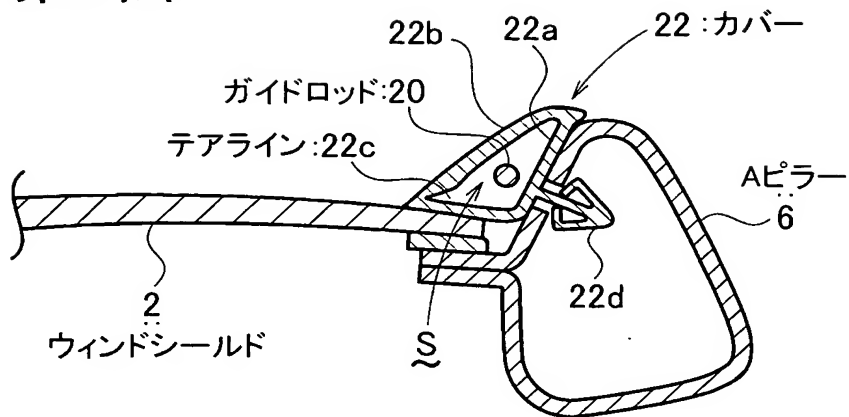
第3図

【図3】

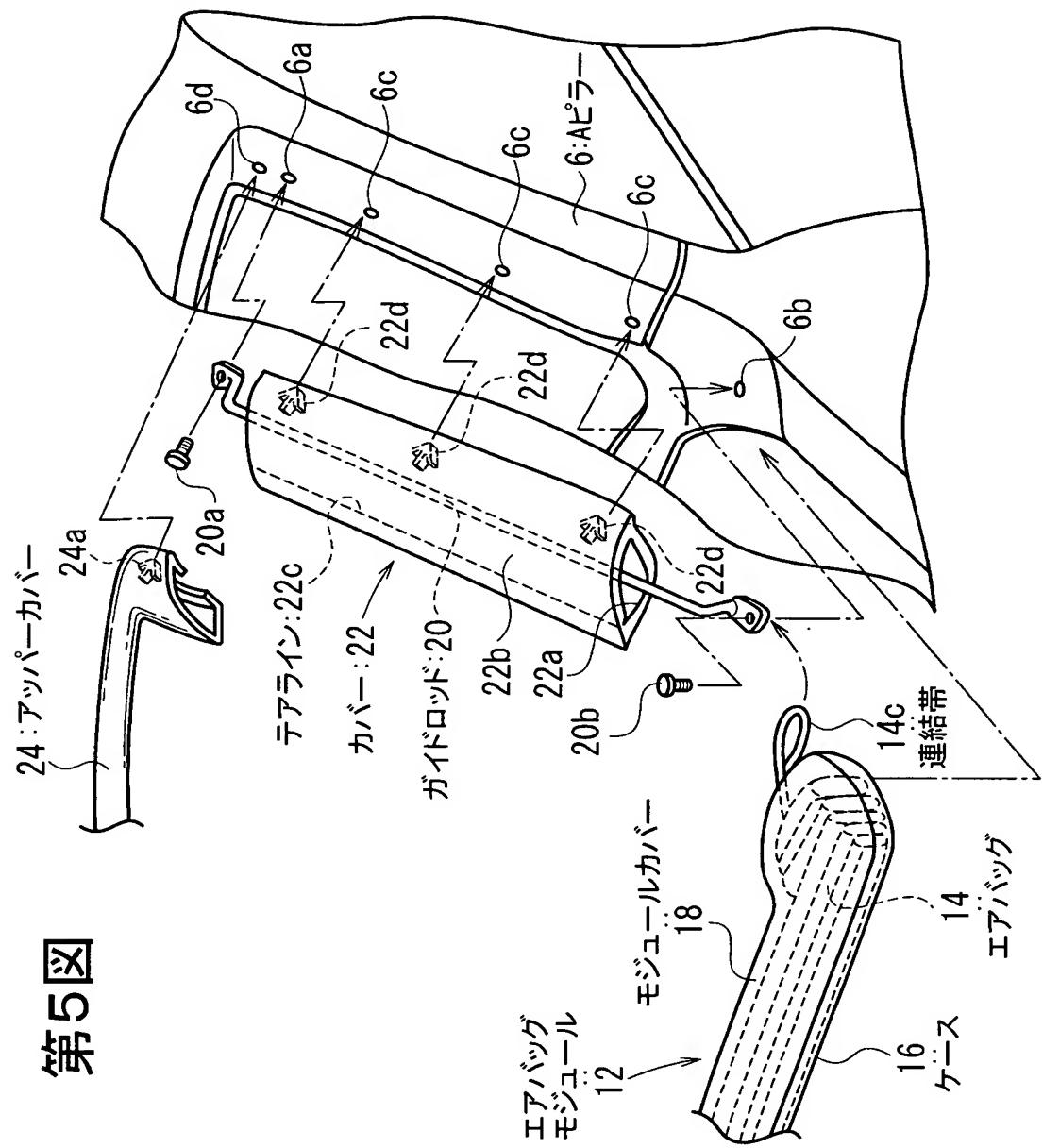


【図 4】

第4図



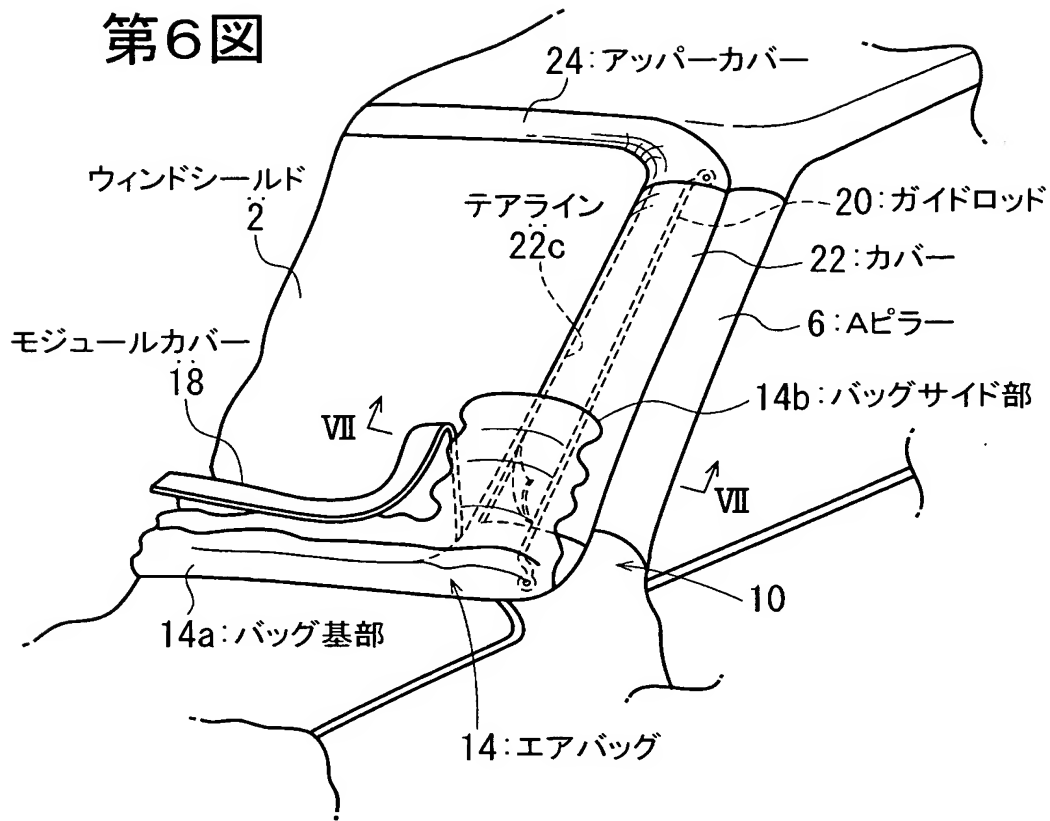
【図 5】



第5図

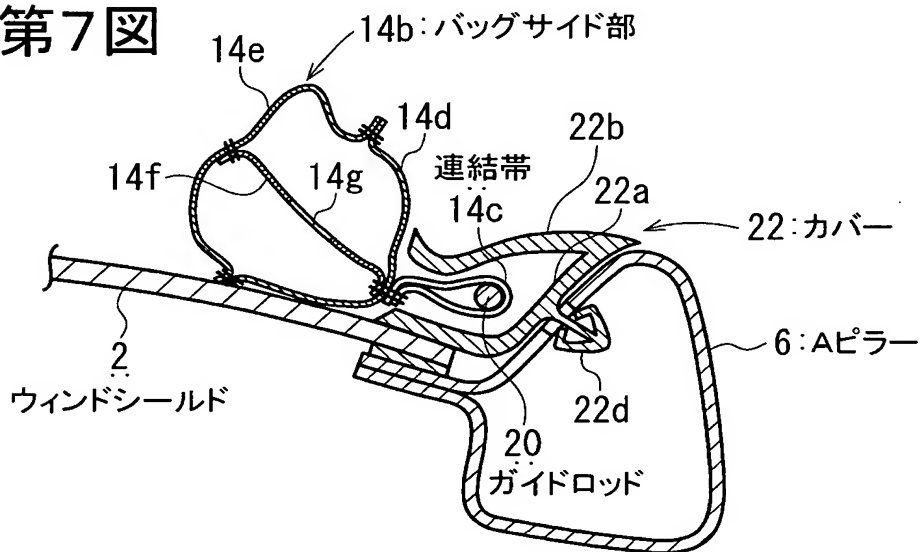
【図 6】

第6図

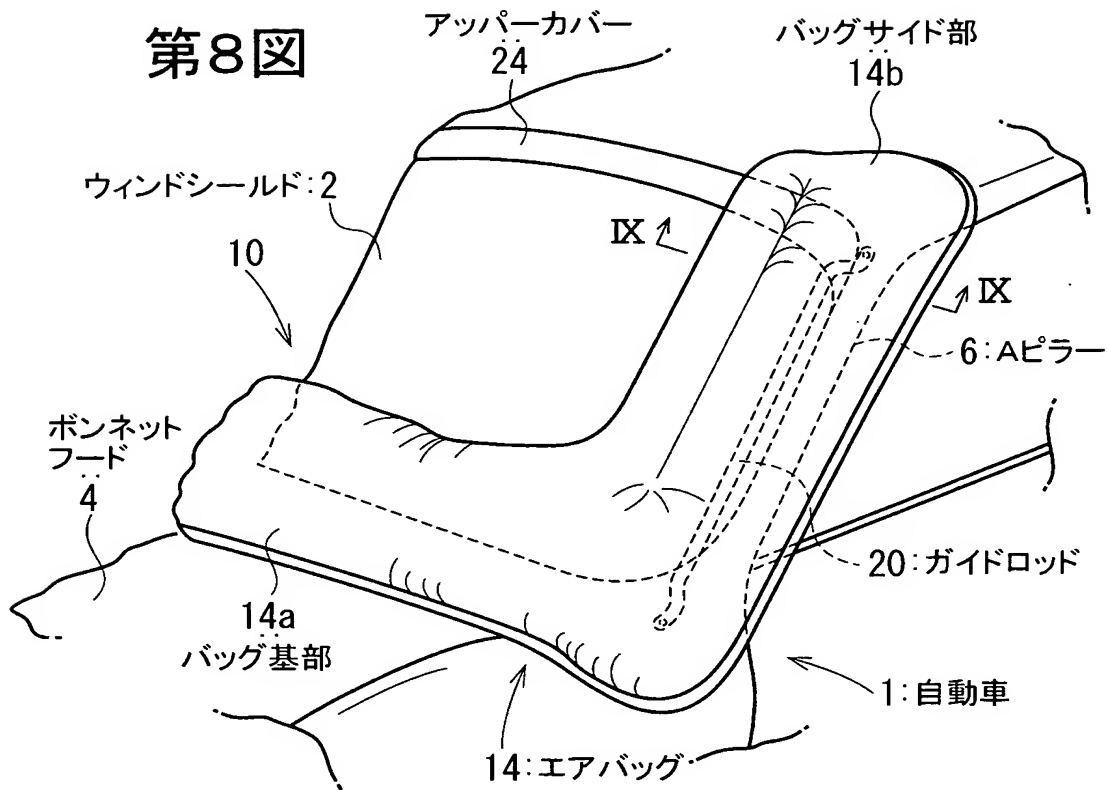


【図 7】

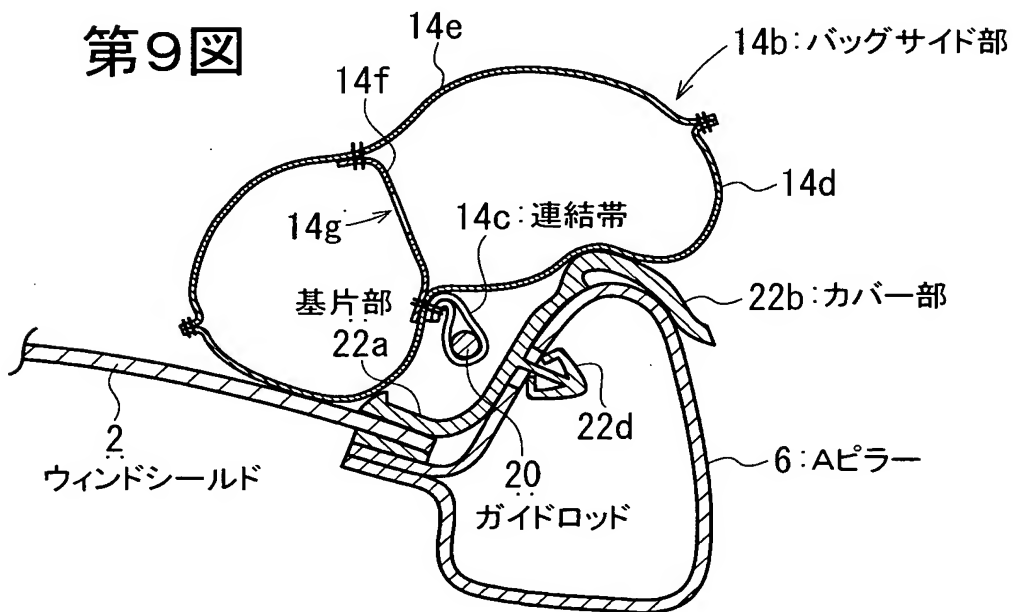
第7図



【図 8】

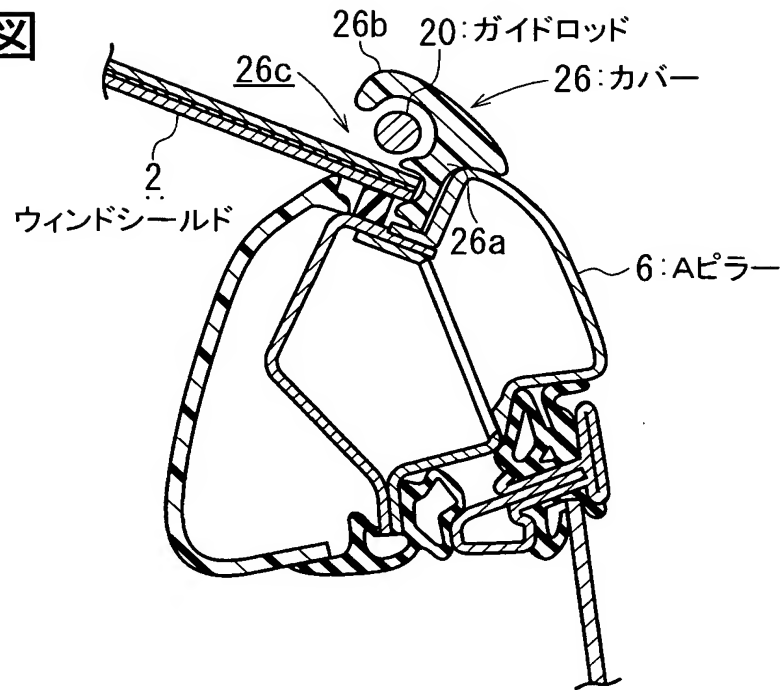


【図 9】



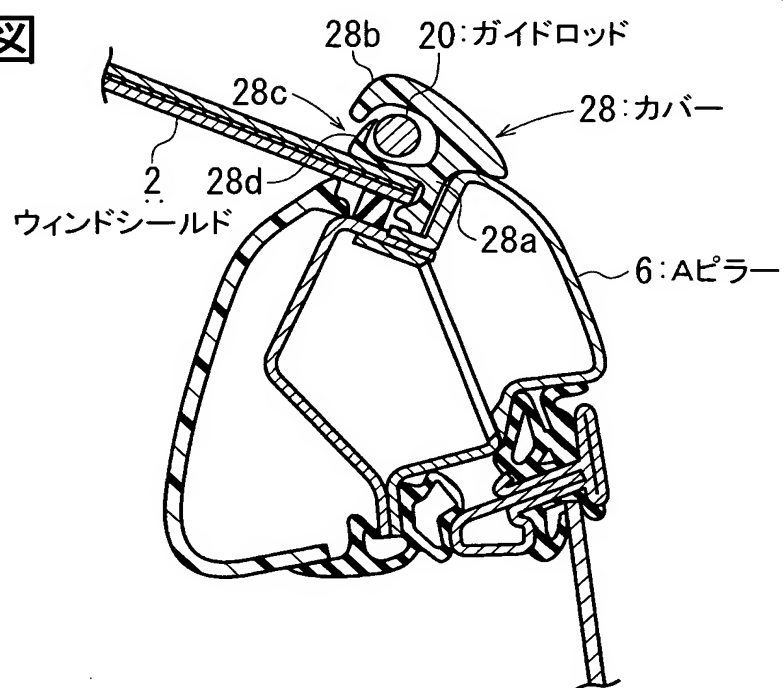
【図 10】

第10図



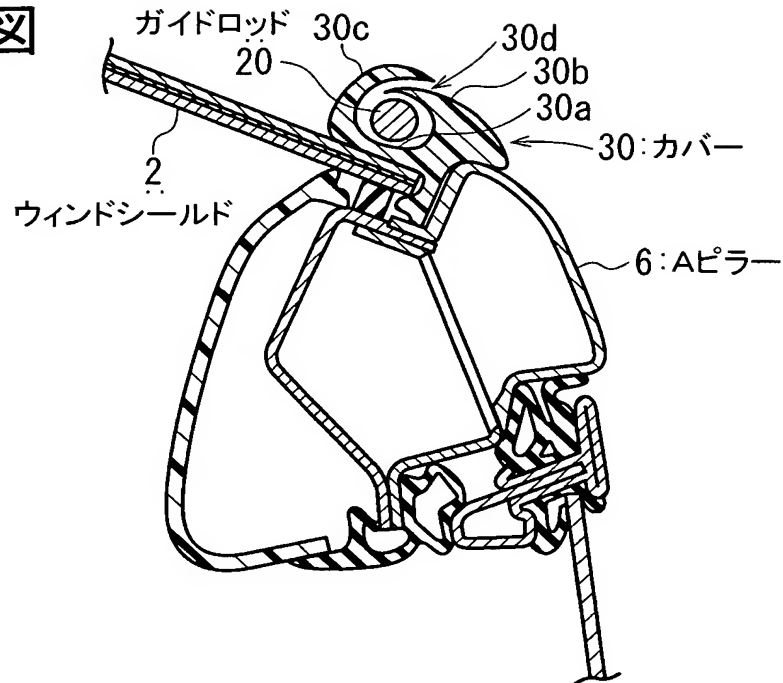
【図 11】

第11図



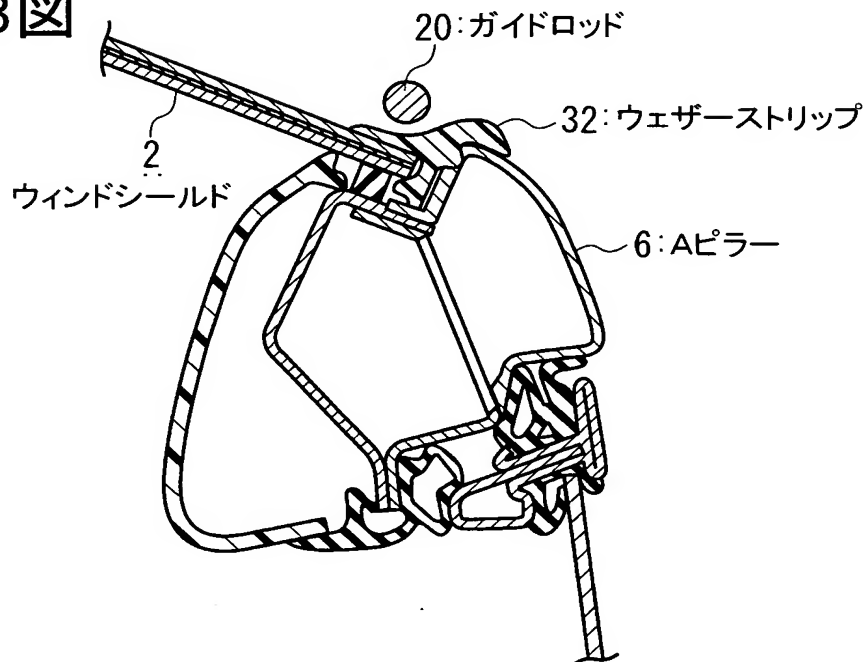
【図 12】

第12図



【図 13】

第13図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 エアバッグが確実に展開予定領域に沿って展開する外面展開型エアバッグ装置を提供する。

【解決手段】 エアバッグ 14 は、ウィンドシールド 2 の下縁部に沿って展開するバッグ基部 14 a と、該バッグ基部 14 a の左右両端側からそれぞれ A ピラー 6 の外面に沿って展開するバッグサイド部 14 b とを有している。A ピラー 6 の外面に沿って上下方向に延在するガイドロッド 20 が設けられている。バッグサイド部 14 b の上端部には、該バッグサイド部 14 b とガイドロッド 20 とを連結する連結帯 14 c が取り付けられている。連結帯 14 c は、ガイドロッド 20 に沿って移動自在となっている。バッグサイド部 14 b は、連結帯 14 c を介してガイドロッド 20 に沿って案内され、A ピラー 6 の外面に沿って展開する。

【選択図】 図 3

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 1 4 0 6 3 1
受付番号	5 0 3 0 0 8 2 8 2 6 1
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 5 年 5 月 2 0 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成15年 5月19日

次頁無

特願 2 0 0 3 - 1 4 0 6 3 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 0 8 5 9 1]

1. 変更年月日
[変更理由]

1 9 9 0 年 8 月 7 日
新規登録

住 所
氏 名

東京都港区六本木 1 丁目 4 番 3 0 号
タカタ株式会社